

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2021年

5月

189号

薫風



◇立教祭ご真教法話

宗教法人 真生会

仏の種を育てよう！

『一人が一人、仏縁にお誘いしよう』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

開教四十二周年

立教祭りモート開催

先祖報恩子孫繁栄総供養
ご本尊胎内仏供養



ご真教法話をされる会長先生



総供養を読み上げられる会長先生ご夫妻



福運お授けのお祇いの儀



胎内仏はご本尊に奉安される



胎内仏・導師式衆ご入堂



新役員任命式



リモート参拝される谷口副会長先生ご夫妻（大阪教会）

立教祭アラカルト



一心行表彰、家族3人同時表彰の堀部英敏様

リモートライブ配信



LINE 公式アカウント（一般公開）

総本山真生寺の行事や四季の写真をお届けします !!)



LINE 真生会ライブ配信（会員限定）会長先生のご法話が視聴できます。会員相互の招待で参加できます。誘い合って法の輪を広げましょう！

◇ YouTube 「真生寺ナムル」でも動画を一般公開中◇

開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁



仏を信ずれば仏力が得られ、師を信ずれば師力を得ることができません。

たとえ遠方であっても、電話や手紙など何らかの方法で接近せねばなりません。ましてや近くであれば月に一度は法座に出席して直に法話を聞いたり相談をするとか、自分の心次第で法に接近する道はあります。インスタント信仰では真の道はわかりません。

霊場巡りのお遍路へんろさんの菅笠すげがさに「同行二人」と書いてありますのも、「人生の道を行くには仏様と二人づれ」の精神を忘れぬために教えられているのです。日常生活において、よく怒ったり、愚痴をこぼしたり、貪むさぼるときは、折角学んだ法も忘れて我流になっているのです。

(1978年、真実に生きる2号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇立教祭ぶし眞教法話

み仏様、開祖さま教母さま、立教祭奉修ぶし守護、誠に有り難うございます。また本日、総本山眞生寺にご参集の岐阜教会役員並びに代表信者の皆様、大阪教会、名古屋教会、そして全国のリモート参拝の会員信者の皆様、眞生会開教四十二周年立教祭、誠におめでとうございます。

今年はコロナウイルス感染症の猛威もういにより、大勢の会員信者の皆様が総本山に集まることのできない状況の中、ラインのライブ配信により、リモート開催ができますことは、大変有り難いことです。

ご承知のように、いま世界はコロナのために「大変な状況」に直面しています。「大変」とは大きく変わる時なのです。

貧しい時は助け合ってきた人間が豊かになるに付け、自己中心の世の中になり、差別や迫害がはびこり、格差社会が広がりつゝあります。

世界の国々も自国ファーストにより対立し、国際関係は一触即発の危険状態です。自然界においては、異常気象により五十年に一度、百年に一度の豪雨災害や猛暑、豪雪被害が頻繁ひんぱんに起こり、大地震はいつやってくるかわかりません。人類の限りの無い欲望と競争社会の行き過ぎが、地球の自然を破壊し、人の心をむしばんでいるのではないのでしょうか？

聖徳太子が「教えなき者は禽獣きんじゆうに等しい」と言われましたように、信仰心の無い人間は、どんなに地位があっても、学歴があっても、財があっても、弱肉強食、自己中心の愚かな存在なのです。我がと我が、欲と欲がぶつかり合って「怒りの炎、煩惱の炎」が燃えているのです。

この非常事態においても、菅総理と小池都知事は折り合わず怒りの火が燃えています。愛知県の大村県知事と名古屋の河村市長も非難おうしゆうの応酬で燃えています。愚かなことです。

今こそ私たちは、人としての正しい生き方、真実の生き方に目覚めなければ

なりません。

それには真生会の今年の信仰目標である「仏の種を育てよう。一人が一人、仏縁にお誘いしよう」を勇氣と使命感を持って実践することです。すべての人の心の奥底には、仏様の心すなわち仏性が備わっているのですが、それに気が付かず、仏性が眠っているのです。仏性は仏様の教えのご縁に触れる事によってのみ目覚めるのです。わが子や家族に教えを伝えましょう。友達や困っている人を教えにお誘いしましょう。そして、仏の種を育て明るく楽しい、弱い立場の人に優しい「慈悲の世界」を実現しましょう。

開祖さまは、日本の津々浦々まで、世界の隅々にまで、この尊い法華経を伝えたいと決意され、四十二年前に真生会をゼロから開教されたのです。その願いがおたすきに書かれています。それが「一天四海 皆歸妙法」です。そのためには「教菩薩法」と言っきょうぼさつほほうて自分が菩薩になると共に、人を菩薩に育てることです。そのことが「仏所護念」と言っぶつしよごねんて諸仏が守り続けて来られた教えであり、諸仏が守って下さるのです。

仏さまの総願であり、開祖さまが示して下さいように、法華経によって一

人ひとりが自分の仏性に気付き、いつでも笑顔で明るい輝く自分を作り、思いやりと親切を実践し、温もりと安心のある慈悲の世界「真生楽園建設」を実現させることです。

どうか皆さんで力を合わせ、会員信者一丸となって教えを弘め、平和な家庭、平和な世界を一日も早く実現し、誰もが大安心して暮らせる世の中を作り出しましょう。

◇すべては自分が作り出す

三月の末、あるご婦人が添削を受けに来られました。

「会長先生、昨日から顔が真っ赤にただれ、びっくりして医者に掛かりましたら、花粉症とPM2.5などのアレルギー症状だと言われ、塗り薬や飲み薬を頂きましたが、どのように悟ったら、早く治るのでしょうか」というご相談です。

「春先になるとスギ花粉やヒノキ花粉などがいっぱい飛んできますが、それは毎年のことです。今年に限り特にひどいというのは、何か原因がありますよ。顔が真っ赤にただれて、何が一番苦になり困りますか？」

「はい、痒^{かゆ}さや痛^{いた}さより、こんな顔をして恥^かずかしくて人前に出られないのが一番困ります」という返答でした。

「世の中は困る者の罪であり、原因と結果、種と実は同じです。あなたが一番困るのは、恥^かずかしくて人前に出られないということですから、人の前に出られないように誰かの顔^{つぶ}を潰^{つぶ}してしまったことはありませんか」

「今は特には思い当たりません。」

「十日ほど前に原因があると思います。よく振り返ってみて下さい」と時の真理による自然法によりアドバイスしました。

翌日また添削に来られ、

「先生、思い当たることがありました。嫁は勤めており、夜勤もあるので、孫の世話や家事をあまりやってくれないことを十日ほど前、私の実母と息子の嫁の愚痴をこぼしていました。食事をしながらそれを聞いていた息子が、ちよつと困って嫁と共通の仲の良い友達に話したようです。」

それが、周りまわって嫁の耳に入ったのです。すると嫁が『お母さん、私は家事が苦^に手^がで嫌^がいですが、何か言いたいことがあったら、直接言ってもらえま

すか。出来るだけ努力しますから』という出来事がありました。」

「そうですか、きつとそれが原因ですよ。」

お嫁さんは自分に対する義母と祖母の愚痴が外の他人から聞こえてきて、友達に対して顔向けができず、きつと恥ずかしい思いをされたのでしよう。お宅のお嫁さんはあつさりした人ですから、根に持つようなことはなく大丈夫と思えますが、よく懺悔^{ざんげ}してお詫びすることです。

そして毎日、清水で洗顔して下さい。水は浄行菩薩の『水はすべての汚れ^{けが}を浄めるをもって行となす』という、大自然の仏の働きがあります。嫁の顔を汚すようなことをして申し訳ありませんでした。これからは、人の顔を汚すようなことは致しませんから、どうぞお守りくださいと心に念じながら洗顔して下さい。きつと早くきれいに治りますよ」と申し上げました。しっかりと実践されたお陰で、すっかり良くなられました。

すべての困ったことは自分の種まきなのです。正しく悟れば、きつと解決します。

信仰は自己採点だけでなく、教えの添削を受けて精進しましょう。

釈尊物語

⑨

◇◆第二の矢を受けず◆◇

ある時、竹林精舎に居られた釈尊が弟子たちにふと語りかけられた。

「修行者たちよ。この教えをまだ聞かぬ人たちも、樂受らくじゆを受け、苦受くじゆを受け、非苦非樂受ひくひらくじゆを受ける。すでにこの教えを聞いた者たちも、樂受を受け、苦受を受け、非苦非樂受を受ける。いったい、教えを聞かぬ人たちと、すでに教えを聞いた者とどこに違いがあるのだろうか」

釈尊は、時としてこのような質問を弟子たちにして、彼らの教えの理解度を確かめられたのです。

「受じゆ」というのは感覺という言葉です。花を見ては楽しい、美女や美男子を見ては嬉しく思う。それが樂受である。病気になるば苦しいと思ひ、お金に困れば苦しい、嫌いな人と出会えば苦しいというのは苦受である。

仏教者といえども、美しい花を見ては楽しいと思ひ、ひどい目にあえば苦しいと思ふ。それは、仏教者であろうとなかろうと変わることはない。いったい、仏教者とそうでない人はどこが違うのか。その質問に対して弟子たちは答えることが出来なかつた。

「お釈迦さま、私たちの法は世尊を根本となし、世尊を眼目となし、世尊を拠より所としております。願わくはそのこと

についてお説きください」わからないから教えて頂きたい、というのである。

そこで釈尊が彼らに語ったことは、要するに「第二の矢」を受けるか受けないかということであった。

「修行者たちよ。まだこの法を聞かない人たちは、苦受を受けると、嘆き悲しんで、いよいよ混乱に陥る。それは、ちょうど第一の矢を受けて、さらに第二の矢を受けることに似ている。だが、すでにこの法を聞いた者は、たとえ苦受を受け、ても、いたずらに嘆き悲しんで、さらに混乱に陥ることがない。それを私は第二の矢を受けないというのである」

さらに釈尊は樂受についても同じように説いた。仏教者といえども、楽しいと

いうこともある。だが、その楽しみにおぼれて逸脱することがない。逸脱すれば、第二の矢が苦受となってやって来る。その第二の矢を受けないのが仏教者というものである。

※何事にも深く執とらわれてはいけないということですよ。楽しみも苦しみも深追いすれば、正しい生き方を見失う。何事にもあつさりすつきりさっぱりすることです。



今月の運勢（6月）

（2021年6月5日～7月7日）

一 白水星

世界の中心にどっしり腰を据えて無暗に動かないこと。今は動より静、状況をよく観察し、計画を見直すチャンス。先祖供養をしかりして徳のエネルギーを蓄えること。

二 黒土星

今日までの努力が結果として表れ、天下泰平。社長と社員、目上と目下、年配者と若者がお互いの立場と役割を自覚し、協力すれば安泰。信じて頼れば上位者の応援が得られる。

三 碧木星

収穫の時を迎えている。家族や友人と明るく楽しい交わりを大切にしよう。争いごとや勝負はしないこと。何事も順序を守り、最初のボタンの掛け違いは気を付けること。

四 緑木星

壁にぶつかり変化の時を迎えた。慌てず水を流れるように徐々に進むこと。事を始めるに当たり、人を介して水が次第に浸み込むようにしかるべき手順を迫って進めれば安心。

五 黄土星

脚光を浴び華やかな月となる。気分も明るくアイデアも冴え、行動力も旺盛だが、意見の衝突が争いごとになり

ないよう注意。何事も

公明正大、好き嫌いなく誰にも公平に接するよう心がけること。

六 白金星

衰運期。発展伸張しようとするれば苦悩が付きまとう。想定外の争いごとに巻き込まれやすいので要注意。自己主張は控え、人の意見をよく聞いて非を素直に改めれば好転する。

七 赤金星

悦びに人や物が集まってくる。徳人に出会い従えば願い事は通る。積極的に打って出るなら利がある。大きな犠牲を払ってでも打って出てよい。突発事故に

も備えを怠らない。

八 白土星

運気は上り坂となり、多くの人を養い面倒を見る力に溢れている。正しい目的と正しい方法で利益を得ること。言葉に力があるので人に勇気と喜びを与える言葉を中心掛けよう。

九 紫火星

高運気を迎え、古きを去り、新しきを取り入れて発展する時である。堅い物もじつくり煮込めば柔らかくなるように、手間をかけて新旧の調整をして新時代に即応する優秀な部下を育てることに力を注ぐこと。

「まごころ誌代」御礼

土川順寛	奥田佳代	坪井佑介	豊田直正	東森敦巳
土川恭代	滝山恵依子	今園達也	豊田真悠子	
土川康二	某女	松下若葉	早野起世	某
土川廣美	宮島りえ	浅井佑季子	早野雅大	松尾定洋
横山知津子	荒木敬依子	林田早紀子	加納優子	澤 君美
半澤照子	大下裕子	高木啓至	加納宏樹	澤 芳子
安田初子	出田梓	高木佑有子	加納快志斗	加納悠貴
伊東 晃	三村南央斗	鈴木光隆	多田正幸	堀部高佑
佐藤百々枝	石丸祐視子	宮田雄貴	多田道子	横井富男
佐藤光洋	堀田純子	多田佳央	水田祐記子	横井志奈子
増田恵視子	坂本育身	田中庸仁	大橋千枝子	斎藤玲子
山本季美衣	永田雅子	田中佑季子	横山都久子	福元正子
小村一紘	村上視佑記	田中啓予	宮田裕加里	松本真由美
今井純司	平口富子	田中宏明	河合健司	京川春男
池澤幸代	小林佑実子	亀井善広	河合愛実	東森敦巳
東島杏実	谷口祐晟	亀井由実子	河合詩遠	松本裕樹
細谷早予子	谷口祐子	堀部英敏	河合里紗	高橋けさ江
笹原正子	八色由奈	足立和美	河合央真	滝本光夫
三村千佳	八色愛結	高橋身衣	四日市某	

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもって感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

今日あるは
親のお陰と感謝して
親の有り難さが分かった時
運命が好転し始める
親のことが喜べないと
運命は下り坂となる
世の中に首（親）の無い人
は歩いていない

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします。詳しくはお尋ねください。

2021年5月10日発行 第189号(通巻294号)
※誌代無料(浄財の献金により無料発行しています)